



対馬市長 比田勝 尚喜

# 謹賀

## 新年のご

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、輝かしい初春を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日頃より市政に対しまして深いご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本年は、天皇陛下ご退位により元号が平成から改元される節目の年となります。これから4か月が「内と外、地と天が、ともに『平らかに成る』」という願いが込められた平成時代の掉尾を飾るに相応しい日々となるよう心から祈念いたします。

さて、昨年は、世相を表す漢字が「災」に決定したとおり、北海道胆振東部地震をはじめとする激甚災害が日本各地で発生し、多くの国民の脳裏に刻まれました。近年、異常気象による自然災害が多発し、本市においても台風や豪雨による土砂崩れや河川の氾濫などによる被害が発生しており、いつ起こるか分からない災害に大きな不安を感じておられる方も少なくないと思います。幸いにも人命に関わる被害はありませんでしたが、決して看過することなく、今後も市民皆様の安全・安心を確保するため、昨年4月に創設した地域安全防災室が核となり、防災意識の啓発と自助・共助・公助による防災力の更なる強化に向けた取組を進めてまいります。

一方で、日本初となる国際航路への混乗が実現した記念すべき年でもありました。これは博多港と釜山港を結ぶ国際航路、JR九州高速船(株)の高速船ビートルに国内旅客と国際旅客を同時に乗船させるものであり、対馬北部にお住まいの皆様のご生活利便性の向上と福祉の充実につなげることを目的に、遡ること平成21年から本格的な協議を始めました。何分前例のない取組でありましたので、調整等に時間を要しましたが、関係機関のご理解とご協力を得て、昨年7月23日に運航の運びとなりました。継続的に運航していくためにも、皆様のご利用をよろしくお願いいたします。

また、一昨年に施行された有人国境離島法に基づく特定有人国境離島地域社会維持推進交付金に

おける創業支援事業では、これまで多くの方々が新規創業や事業拡大に取り組み、雇用の創出に活用していただいております。

さらに、近年、様々な環境の変化とニーズの多様化により都市部から対馬への移住に関心が寄せられていることもあり、それらを後押しするための移住支援補助金やお試し住宅の展開など、雇用創出との相乗効果で移住者が増加している状況です。

これらの効果もあり、平成28年度に416人であった社会減が、平成29年度には210人まで減少幅が縮小しており、平成30年度は減少幅が更に縮小することが見込まれています。

そのほかにも、対馬の元寇を舞台とした漫画「アンゴルモア元寇合戦記」のアニメ化により、多くの方々が対馬に興味を持ち、足を運んでいただいております。また、観光客の満足度の向上や受け入れ体制の強化のため、対馬博物館(仮称)や海の玄関口である厳原港国内ターミナルの建設工事の着工、そして、企業誘致により市内2店舗目となる(株)東横インのホテル建設も始まっています。

さらに、明治大学と連携した、木材などの搬送トラックやバスなどの自動運転社会の実証実験などを実施していきたいと考えており、これらは人口減少が進む本市の持続可能な地域づくりとして、対馬経済の発展や生活利便性の向上に大きく寄与するものと期待しているところでございます。

私たちの故郷「対馬」は、数多くの地域資源に恵まれ、国境の島として大きな発展の可能性を秘めています。その資源を有効活用し、地域づくりの主役である市民皆様の意欲・熱意・創造力を原動力に、市の将来像である「みんなで目指そう！自立と循環の宝の島 対馬」の実現に向け、市民協働の市政運営に邁進してまいりますので、本年も相変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様方にとりまして、活力に溢れ、笑顔が輝く素晴らしい年になりますよう心から祈念し、新年のごあいさつといたします。

# 新年

あいさつ



対馬市議会議長 小川 廣康

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、ご健勝で希望に満ちた新春をご家族おそろいでお迎えのことと心からお喜び申し上げます。平成31年の年頭に当たり市議会を代表いたしまして、ここに謹んで新年のあいさつを申し上げます。

市民の皆様には、日ごろから市議会に対しまして、深いご理解と温かいご支援を賜り、心からお礼申し上げます。

さて、昨年の世相を表す漢字は、メディアでも報道されていた「災」でありました。北海道胆振東部地震、西日本豪雨、台風21号・24号の直撃など、例年に増して災害が多く発生し、テレビ、新聞等を通して災害の様子を知り、自然の力は想像を絶するものであると、災害の脅威を痛感したところでした。災害の経験から防災意識が高まり、多くの人が自助・共助の大切さを再認識した年でした。

また、天皇陛下が退位され、皇太子様が新天皇に即位されることが決まりましたので、新しい元号へ代わることになり、新しい時代が始まります。

社会は、益々グローバル化が進み、国や地域といった垣根を越えて、世界的に人材、情報、資本等のやりとりが行われることになり、これまでになかった変化が起きることが予想され、不透明な社会になっていくことと思われま

す。著しく変化する社会情勢下においては、議会の役割及び責務を十分に果たし、市民の負託に全力で応えるため、議会の政策提言・政策立案の強化を図り、さらに市民に開かれた議会へと変革し続けることが重要であると考えております。

私たち、議会におきましては、より市民に開かれた透明性の高い議会を目指し、議会基本条例に基づき議会改革を推進しているところであり、昨年は、議会改革という大きな扉を開けたような施策を実行できた年だったと思っております。

まず、議会報告会の開催であります。地域に向き、市民の皆様と意見の交換ができたことは、今後の議会活動において大きな収穫でした。今回の反省等を含め議会報告会を検証し、より充実した市民皆様との情報交換の場にしていきたいと考

えております。

次に、議会だよりの発行です。議会からの情報発信として、昨年の6月・9月定例会の状況等を記事内容として、2回発行しました。今後も定例会ごとに、年4回、発行する計画をしております。是非、継続していきたいと思っております。

次に、議会において、ペーパーレス会議を目指してタブレット端末を試験的に導入したことです。今はまだ、ペーパー等の節減、情報共有等を始めたところであり、議案書等はペーパーとタブレット端末の併用ですが、今年の6月定例会からは、完全ペーパーレス会議を行うこととしています。

昨年から、議員それぞれが市民の皆様の負託に応えられるよう「チーム議会」として連帯を深め、議会改革の一つとして、施策に取り組んでいるところでもあります。今後も日々検証を怠ることなく、研鑽を重ね、市民のより近いところで、市民の目線にたった議会活動を行っていく所存であります。

また、対馬市の一年を振り返ってみますと、悲願でありました、有人国境離島法が施行され、さまざまな施策により、地域活性化の特効薬としての新法を実感しているところですが、地域に応じた新法活用が期待されているところでもあります。更なる事業展開が望まれており、市長と知恵を出し合い、交流人口の拡大等、対馬を活性化させる新たな施策を推し進め、実行力のある議会を構築しなければならないと考えております。

地域創生が求められる今日、地方自治の自主・自立が一層重要となってまいります。地域活性化に向け、議会と行政が切磋琢磨して、地域に応じたまちづくりを進めて行くことが求められており、地域の熱量と力量が問われているところでもあります。

私ども議会といたしましても、より豊かな住みよいふるさとづくりを目指し、今後さらなる創意工夫を重ね、市民皆様方のご期待に応えられますよう決意を新たにしておりますので、どうか本年も相変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げますとともに、市民の皆様にとりまして、本年が素晴らしい年になりますことを心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。